

奉獻神卷

武藏國足立郡芝阜社

號羽盡此云波大明神

乃羽明玉神也緣起之

書光年遇池魚之決予

恐後人竟失神號因錄

之如此而已

維時

建武式歲辛亥春三月十五日

大中臣實氏敬白

小名

樋ノ詰 神戶 下 高木 塚原 塚

越 田中 辻 東木戸 宮根

神社

羽曾呂社 或ハ羽盡ト書シ波曾呂比ト訓

ニシテ祭ルトコロ羽明玉命ナリ日本書

紀ニ素盞鳴尊將昇天時有一神號羽明玉

此神奉迎而進以瑞八坂瓊之曲王故素盞

鳴尊持其瓊玉而到之於天上也ト一書ノ

文ヲ載タリサレト鎮座ノ年代等ハ詳ナ

ラス或云左ニハアラステ兒屋根命太玉

命ノ二座ヲ祀レル社ナリト未何レカ正

トスルヲ知ラス今神體トスル所ハ

徑六寸ノ圓鏡ニテ建武二年ノ銘文アリ

上ノ如シ裏面ニ秋ノ草花及ヒ雀ナトテ

鑄出タリシノ跡上ニノス古鏡ナルコト

ハ疑フヘクモアラサレト文體後世ノモ

ハ定メカクモ社領ノ御朱印ハ天正十九

年ノ例祭ハ二月十五日六月十日

末社 荒波々喜社 祭神ハ足摩槌手 稻荷社 神

主關口河内吉田家ノ配下ニテ建武年中ヨリ子孫連綿トシテ神職ヲ勤メリト云サ

世々ノ實名ヲ記シタルト年 代等詳ナラザレハ爰ニ略ス